

○ 本校の概要

本校は、本年度97周年を迎え、常に地域と密接にかかわりながら、発展してきた学校である。これからの教育を見据え、校内研究を柱に、「問題解決的な学習活動を通して」児童自ら考え、判断し、表現できる児童の育成を目指し、全教職員で教育活動を実践してきた。一方で基礎基本的な学力の定着も課題であり、授業改善を行いながら粘り強く日々の授業を展開している。その結果、少しずつではあるが、区、都、国のいずれの学力調査においても、年々伸びが見られるようになってきている。学習習慣の定着と授業改善によって、今後もこの傾向を維持していく。また、生活面においては規範意識や基本的な生活習慣に課題が見られ、生活指導部を中心に「大森3小10のやくそく」の改善とその定着に取り組んできた。ここ2年で、「あいさつがきちんとできる学校」を目指し、あいさつ運動等の取り組みにより、地域からも認められる成果を得るまでに至っている。本校の特色として「地域との連携」を挙げることができる。人とのかかわり、地域とのかかわりとして、近隣にある東邦大学や大森学園高校との連携や大森町、梅屋敷の二つの商店街、中小の町工場と連携した学習、「スクールサポートおっさん」を中心とした地域人材の活用による授業の展開などをより一層推進していく。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

Table with 10 columns: 大項目, 目標, 取組内容, 取組指標, 取組評価, 目標に対する成果指標, 成果評価, これまでの取組今後の改善策, 学校関係者記入欄 (評価人数, コメント). Rows include: 未来社会を創造的に生きる子供の育成, ブラン1 (コミュニケーション能力), ブラン2 (児童・生徒一人ひとりの学力), ブラン3 (子ども一人ひとりの正義感), ブラン4 (スポーツに親しむ), ブラン5 (児童・生徒が安全・安心に), ブラン6 (学校・家庭・地域が担う).

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す